



////////////////////////////////////

日本植物分類学会 ニュースレター

////////////////////////////////////

No. 95

Nov. 2024

目次

○諸報告

2024 年度日本植物分類学会野外研修会の報告 . . . 2

○お知らせ

次期 (2025-2026 年度) 幹事について 2

2024 年度日本植物分類学会講演会のお知らせ 3

日本植物分類学会

第 24 回大会 (高知大会) および

2025 年度総会のご案内 5

植物関連雑誌のタイトル紹介 8

第 40 回国際生物学賞記念シンポジウムの案内 . . . 14

会費納入のお願い 16

○寄稿

保安林内における植物採集 .

DNA 用サンプル採取には届出が必要か 16

○書評

宮城県野生植物分布図集 [電子版] 18

会員消息 20

諸報告

2024 年度日本植物分類学会野外研修会の報告

野外研修会担当 鈴木 武

茨城県自然博物館の鈴木亮輔さん、伊藤彩乃さんの企画で、2024年9月30日（月）に茨城県つくば市宝篋山（ほうきょうさん）で実施した。前日の9月29日夜に希望者4名がつくば駅周辺で懇親会も行った。

9月30日朝9時につくば駅集合で、10名（東北3名、関東3名、愛知、京都、三重、福岡）。茨城県博2名とともに、乗用車で小田駐車場に9時半ころ到着。ここで、地元の動植物に詳しい栗原孝さん、松田浩二さんも加わり、総勢14名で常願寺コースへ向かった。

早速に田んぼのあぜで植物観察となった。ウマノスズクサがワサワサ生えていて、ヒメミズワラビも見つかった。湿地状の場所では、ヒロハイヌノヒゲやアブラガヤなどがあり、カヤツリグサ科やイネ科植物に各地での話題もいれて雑談になって、進まない。やっとコースの入口にたどり着くが、イタチシダ類、ベニシダ類の集団でまた止まってしまう。

すぐに昼になってしまい、ツリフネソウがきれいな草地わきで昼食とした。沢沿いの天狗岩周辺にはホソバカナワラビが群落となっていて、そこで集合写真を撮影。とても頂上までは無理そうなので、茨城県内では稀産のオオキシノオの大株を見てから折り返した。帰りは帰りてまたあちこちで熱心に学習が行われ、16時過ぎに駐車場に戻り、つくば駅で解散となった。

翌日10月1日（火）はオブションで茨城県自然博物館での羊歯展（会期：令和6年7月6日～10月6日）を案内いただいた。参加者は村上会長も含めて8名。担当の鈴木さんのシダ愛がこじみ出た展示で、沖縄や奥入瀬の巨大なシダの葉の標本、オオタニワタリ、園芸マツバラン、シノブを用いるつりしのぶなどの生株、シダの民芸品など多様な内容に楽しませていただいた。

十分な広報ができず失礼してしまっていたが、熱心な会員が集まり、実際の植物の見てよい交流になったと感じている。最後に準備も含めてお世話になった茨城県博の鈴木さん、伊藤さんに感謝致します。



図1. 宝篋山天狗岩集合写真

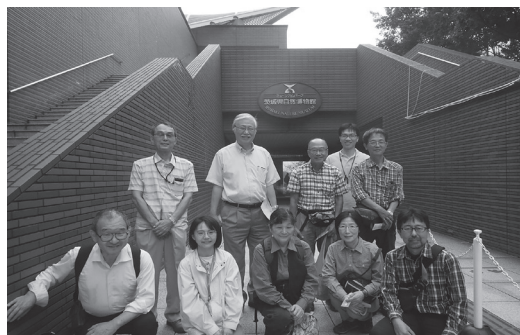


図2. 茨城県博入口集合写真

お知らせ

次期（2025-2026年度）幹事について

庶務幹事 西野 貴子

次期幹事（2025-2026年度）が下記のとおりで確定しました。庶務幹事、および会計幹事が交代し、2025年1月1日からその連絡先が変わります。お間違えのないようご注意ください。

事務局・庶務幹事（会務全般）

高野 温子（たかの あつこ）

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘 6 丁目 兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境評価研究部

電話 / ファックス : 079-559-2001/079-559-2007

電子メール : jimmu@e-jsps.com

会計幹事（入会申込, 住所変更, 退会, 会費納入, 購読申込など）

永濱 藍（ながはま あい）

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1 国立科学博物館 植物研究部

電話 / ファックス : 029-853-8972 / 029-853-8401

電子メール : kaikei@e-jsps.com

図書幹事（バックナンバー・文献閲覧の問い合わせ）

李 忠建（りー ちゅんごん）

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘 6 丁目 兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境評価研究部

電話 / ファックス : 079-559-2001/079-559-2007

電子メール : tosho@e-jsps.com

ニュースレター担当幹事（ニュースレター原稿送付先）

大槻 達郎（おおつき たつお）

〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 滋賀県立琵琶湖博物館 生態系研究領域

電話 / ファックス : 077-568-4811/077-568-4850

電子メール : newsletter@e-jsps.com

ホームページ担当幹事

佐藤 博俊（さとう ひろとし）

〒606-8317 京都市左京区吉田二本松町 京都大学 大学院人間・環境学研究科

電話 / ファックス : 075-753-6804

電子メール : hp@e-jsps.com

2024 年度日本植物分類学会講演会のお知らせ

講演会担当委員 高山 浩司

2024 年度の日本植物分類学会講演会を大阪学院大学で開催いたします。講演会場は十分な広さがありますので（定員 288 名の階段教室）、皆様お誘いあわせの上、ぜひご参加ください。Zoom でのオンライン配信も行います。なお、日本植物分類学会非会員の方でもご参加いただけます。

現地もしくはオンライン参加に関わらず、以下のサイトからの事前登録にご協力ください。参加登録後、オンライン参加用の URL（Zoom）が自動でご登録のメールアドレスに送信されます。メールの返信が届かない場合は、ご登録のメールアドレスに誤りがある可能性があります。再度ご登録するか、講演会担当者までご連絡ください。参加者多数の場合は、早期に受付を締め切らせていただく場合がございます。



【参加登録】 : <https://forms.gle/Vs6ABBeQou66eiHfA>

【日時】：2024年12月14日（土）午前10時～午後5時00分

【講演会場】：大阪学院大学2号館地下1階2号教室（02-B1-02 教室）

〒564-8511 大阪府吹田市岸部南2丁目36番1号（電話：06-6381-8434）

【講演スケジュールと演題】

10:00-10:10 ご挨拶 村上 哲明（会長）

10:10-11:00 横川 昌史（大阪市立自然史博物館）「さく葉標本から見た大阪湾沿岸の海浜植生の今昔」

11:00-11:50 樋口 裕美子（京大大学生態学研究センター）「葉の形状にまつわる生物間相互作用」

（11:50-13:30 昼食）

13:30-14:20 西村 明洋（神戸大学）「小笠原諸島固有の寄生植物シマウツボにおける生態と進化」

14:20-15:10 井上 侑哉（国立科学博物館）「センボンゴケ科を中心としたコケ植物の種多様性研究」

（15:10-15:20 休憩）

15:20-16:10 森 和男（東アジア野生植物研究会）「山の中でキレイな花と出会う」

16:10-16:50 布施 静香（京都大学）「東アジア・東南アジアで単子葉植物を探す」

16:50-17:00 ご挨拶 林 一彦

【会場までのアクセス】

JR 東海道本線岸辺駅、阪急京都線正雀駅から大阪学院大学までともに徒歩 5 分。交通アクセス <http://www.osaka-gu.ac.jp/guide/campus/access.html>, キャンパスマップ <http://www.osaka-gu.ac.jp/guide/campus/index.html>

【参加費】

講演会への参加は無料です。

【懇親会】

講演会終了後、大阪学院大学職員食堂（17号1階）で懇親会を行います。懇親会の参加費は4,000円（院生・学部学生には割引あり）です。参加登録のwebフォームで、参加希望に関するアンケートにご協力ください。なお、アンケートの回答に関わらず当日参加も可能ですので、皆様お誘いあわせの上、ぜひご参加ください。

【講演要旨】

「さく葉標本から見た大阪湾沿岸の海浜植生の今昔」

横川 昌史（大阪市立自然史博物館）

大阪湾沿岸では、古くから埋立が進み、かつて広がっていた砂浜が失われ、多くの海浜植物が絶滅した。一方、各地の標本室には、大阪湾沿岸で採集された古い海浜植物の標本が残されており、これらは過去の海浜環境を知る重要な手掛かりとなる。本研究では、各地の標本室に保存されている23種506点の海浜植物標本を、採集年代や採集地ごとに精査した。その結果、現在では開発が進んでいる湾奥地域を含む大阪湾沿岸にかつて多様な海浜植物が生育しており、砂丘植生が広がっていた可能性が浮かび上がった。さらに、これらの標本は、様々な時代に様々な採集者によって集められたものであり、長い年月をかけて多くの植物誌研究者が大阪湾の海浜植物を記録してきた歴史も紹介する。

「葉の形状にまつわる生物間相互作用」

樋口 裕美子（京大大学生態学研究センター）

野生植物の葉はときに変わった色や形、模様を示す。こうした葉の形状は葉を食べる動物にとってどのような存在なのだろう。花の色や形が送粉者の誘引や選別に作用することがあるように、葉の形状も植食者に作用するのだろうか。演者らはこれまで、植物を加工する習性をもつオトシブミ科昆虫を対象に、葉の形が昆虫の加工行動や寄主利用にどのように影響するのか調べてきた。現在は葉の模様にも興味をもち、被食回避に影響しうるのはか検討している。本講演では演者らの研究とともに、葉の形状にまつわる生物間相互作用についての既存研究もご紹介したい。

「小笠原諸島固有の寄生植物シマウツボにおける生態と進化」

西村 明洋 (神戸大学)

植物は一般に光合成を行い、自立して生活することができる。しかし、中には光合成能力が減退し、他の植物から栄養分を奪って生活する「寄生植物」と呼ばれる植物が存在する。寄生植物は4,500以上の種が存在すると推測されており、その多様化の過程において宿主植物との関係性が注目されている。本講演では、小笠原諸島に固有の寄生植物であるシマウツボについて、近年明らかとなった繁殖生態と寄生能力の劇的な進化を紹介し、その進化過程を宿主植物と分子系統学的観点から考察する。

「センボンゴケ科を中心としたコケ植物の種多様性研究」

井上 侑哉 (国立科学博物館)

約2万種からなるコケ植物には、陸上植物のなかでも並外れた耐久力をもつ種が進化している。センボンゴケ科は極限環境下で普遍的にみられるコケ植物セン類の一群で、乾燥地帯、重金属汚染地、極寒の南極や高山、石灰岩からなる特殊岩地など様々な極限環境に適応した種から構成される。世界に1,200種以上が知られておりコケ植物の中でも突出した種多様性であることから、センボンゴケ科は他の植物が進出できない極限環境へ適応することで多様化を果たした一群とされる。本講演では、東・東南アジア地域のセンボンゴケ科の種多様性や、オルガネラゲノムの解析から明らかになってきた本科の分子進化様式について紹介する。

「山の中でキレイな花と出会う」

森 和男 (東アジア野生植物研究会)

小学校の頃理科の教科書でモウセンゴケを知ったが最初に出会ったのはコモウセンゴケの花だった。同じ日にモウセンゴケとイシモチソウ、ササユリ、カキランの花を見た。モウセンゴケの妖しい粘液とカキランの黄色の花の中の紫色の美しさに見惚れた。今その場所は宅地になりかつての花は影も形もない。それからお金ができれば日本各地の山野の花を見て、もっと多くの綺麗な花に出会いたい…と世界各地の高山植物の美しく咲く山を訪ねて高齢になったがまだまだ山に咲くキレイな花と出会いたい。栽培が出来る可能性のある花は栽培をしたいが4000mを超える花の栽培は容易ではなく見ているだけ。

「東アジア・東南アジアで単子葉植物を探す」

布施 静香 (京都大学)

野生植物を調べるための野外調査は、学問的な重要性があるだけでなく、私たちに自然の中で生きる植物の姿を知る喜びも与えてくれる。私はこれまで東アジア・東南アジアを中心に単子葉植物の調査を行い、標本収集、フロラ調査、系統推定、分類学的再検討などを行ってきた。本講演では、2012年以降しばしば訪れているタイを中心に、東アジア・東南アジアの自然や野外調査の様子、調査で見られたさまざまな単子葉植物を写真交えて紹介する。また、調査の成果についてもいくつか紹介する。

【問い合わせ先】

電話：075-753-4131

メール：takayama@sys.bot.kyoto-u.ac.jp

日本植物分類学会第24回大会 (高知大会) および2025年度総会のご案内

大会会長 川原 信夫・実行委員長 藤川 和美

日本植物分類学会第24回大会を、2025年3月7日(金)から10日(月)まで、高知県立牧野植物園と高知大学が連携し、高知にて開催することとなりました。公開シンポジウム、研究発表(口頭、ポスター)、総会、授賞式、受賞記念講演は、高知大学朝倉キャンパスでの開催です。現在、大会に向けて鋭意準備を進めております。主要な情報は、今後大会ホームページを通じて順次公開していく予定です。皆さまの参加を心よりお待ち申し上げます。

大会事務局 (問い合わせ先)

〒781-8125

高知県高知市五台山4200-6 高知県立牧野植物園

電話：088-882-2601 E-mail: jsps_kochi24@makino.or.jp

プログラム (案)

2025年

3月7日(金) 14:00～20:00 編集委員会・評議員会

3月8日(土) 9:25 開会挨拶

9:30～12:00 公開シンポジウム

13:00～16:30 口頭発表(大会発表賞対象)

16:45～18:30 ポスター発表(大会発表賞対象)

3月9日(日) 8:30～11:30 口頭発表(大会発表賞対象)

12:00～13:00 ランチョンセミナー

13:30～15:00 総会・学会賞授与式

15:10～17:30 受賞記念講演(植物分類学会賞/学会奨励賞)

19:00～ 懇親会・大会発表賞授与式

3月10日(月) 8:30～11:00 口頭発表(一般)

11:15～12:00 ポスター発表(一般・偶数)

13:00～13:45 ポスター発表(一般・奇数)

14:00～17:30 口頭発表(一般)

[発表・シンポジウム会場]

3月8日(土)～10日(月)

高知大学朝倉キャンパス 共通教育2号館 〒780-8520 高知県高知市曙町2丁目5-1

高知大学へのアクセス: <http://www.kochi-u.ac.jp>

[懇親会会場]

3月9日(日) 19:00～

土佐御苑 〒780-0052 高知県高知市大川筋1丁目4-8

[各種委員会]

3月7日(金) 午後

高知市文化プラザかるぼーと 9階 中央公民館第3学習室 〒781-9529 高知県高知市九反田2-1

[公開シンポジウム]

3月8日(土) 9:30～12:00

「みんなで調べる地域の植物 植物誌編纂を目指して(仮題)」

高知大学朝倉キャンパス 〒780-8520 高知県高知市曙町2丁目5-1

[高知県立牧野植物園・学会参加者無料開園] 3月7日(金)および11日(火)

学会参加者は7日(金)と11日(火)は、無料で牧野植物園にご入園いただけます。植物園には正門と中門と2つの入園口がありますが、必ず正門からお入りください。正門受付無料レーンにて皆さんのお名前を7日(金)は参加者名簿にて、11日(火)は学会参加名札にて確認します。

〒781-8125 高知県高知市五台山4200-6 高知県立牧野植物園

植物園までのアクセスは、周遊観光バスMY遊バスをご利用ください。一日五台山券(一部区間路面電車も有効)をご購入ください。

[標本室(MBK)利用]

学会開催期間3月7日(金)から10日(月)までは、学会準備等のため標本室をご利用いただけません。標本室利用ご希望の方は、3月11日(火)(開室時間9:00～17:00)以降の日程で受け付けます。ご希望の方は事前にご予約の上、お越し下さい。なお、閲覧する席に限りがありますので、先着順とします。

高知県立牧野植物園標本室(MBK): https://www.makino.or.jp/fixe/?page_key=specimen-archive

[高知大学植物標本庫(KOCH)の見学]

3月8日(土)、9日(日)、10日(月)のお昼休み中の時間(12:30～12:50)を利用して、コケ植物と地衣類の標本を収蔵している高知大学植物標本庫を簡単にご案内いたします。標本の閲覧などはできません。諸事情により各回5名程度、要事前申込とさせていただきます。先着順としますので見学をご希望される方は大会参加時に受付で申込を行い、12:30に受付前にお集まりください。

[企画展「日本の植物誌&レッドデータブック」巡回展]

岐阜大学図書館2階エントランスホールにて、2024年12月12日(木)～12月25日(水)に開催される企画展「日本の植物誌&レッドデータブック」(主催:日本植物分類学会第19回大会実行委員会)の巡回展示を、大会期間中に高知大学朝倉キャンパス共通教育2号館で行います。

[第24回大会Webページ]

<https://bunruigakkaikochi24.jp>

第24回大会Webページを11月15日以降に公開し、発表参加申込および発表要旨提出の方法や大会プログラムなどを随時アップロードします。

【発表・参加申込】

[申込方法]

2024年12月16日(月)から大会Webページに参加申込フォームを作成いたします。本大会では郵送による申込を実施いたしません。インターネットをご利用できない方は、郵便にて2024年12月20日(金)までに大会実行委員会にご相談ください(それ以降はご対応いたしかねる場合があります)。大会には日本植物分類学会会員・非会員を問わずにご参加いただけますが、口頭発表およびポスター発表の演者(実際に発表する方)は、大会実行委員会から依頼した場合を除き、会員に限りません。非会員の演者(実際に発表する方)は、申込と同時に日本植物分類学会への入会手続きをお願いします。

[参加申込締切日]

- 1) 演者(実際に発表する方): 発表・参加申込/大会・懇親会参加費振込
2025年1月17日(金)
- 2) 演者以外: 参加申込/大会・懇親会参加費振込
2025年1月31日(金)

2月1日(土)以降は振込をせず、当日参加をご利用ください。

[発表要旨締切日] **2025年1月31日(金) 24:00**

[参加費]

- 1) 大会参加費(発表要旨集1冊の代金を含む)
 - i) 事前申込: 一般5,000円, 学生2,500円(2025年1月31日までの振込)
 - ii) 当日参加申込: 一般6,000円, 学生3,500円
- 2) 懇親会参加費
 - i) 事前申込: 一般8,000円, 学生4,000円(2025年1月31日までの振込)
 - ii) 当日参加申込: 一般9,000円, 学生5,000円

3) 寄付の受付

初の試みとなった第23回仙台大会に引き続き、第24回高知大会におきましても、皆さまからのご寄付を受け付けたいと考えております。ご寄付いただいた分については、休憩室での茶菓と飲み物代に使用するほか、懇親会の補助などに使用させていただくことを想定しています。一口500円として、口数をご記入の上、参加費と同じ振込書にてお振り込みをお願い申し上げます。

- 4) 要旨集のみ1冊1,000円(郵送料込み)

5) キャンセルポリシー

原則として、事前参加申込の締め切り(2025年1月31日)翌日以降のキャンセルに対しては、返金いたしません。

[参加費送金先]

郵便振替口座番号: 00170-3-767949

口座名義: 日本植物分類学会大会実行委員会

本ニュースレターに同封した振込用紙もしくは郵便局に備え付けの振込用紙にて、振替金額の内訳(大会参加費、懇親会費、お弁当代、ご寄付金額、要旨集のみの代金)を通信欄にご記入の上、ご送金ください(振込手数料はご自身でご負担ください)。振込者と参加者は同一にしてください。参加申込の際に、振込日と振込郵便局をご入力いただきますので、必ず振込を終えてから参加申込をしてください。

銀行等から振り込む場合は、ゆうちょ銀行の受取口座として下記内容をご指定ください。
店名(店番): ○一九(ゼロイチキュウ)店(019) 預金種目: 当座 口座番号: 0767949

[大会発表賞のエントリー]

大会発表賞へのエントリーができるのは、日本植物分類学会員のパーマナントポストに就いていない研究者(年齢制限はありません)で、筆頭発表者かつ演者(実際に発表する方)本人に限ります。

[発表要旨]

提出方法: 発表要旨は「要旨フォーム」へ記入していただく予定です。2024年12月16日(月)以降に大会Webページをご確認ください。発表申込以降に、要旨を受付けます。
※要旨本文の文字数は650字以内とし、例年と大きな変更点はございませんので事前準備をお願いいたします。提出された発表要旨の差し替えは原則受け付けませんので、提出の前に必ず間違いがないかご確認をお願い申し上げます。なお、図・写真、表は入れられません。

【発表要領】

[ポスター]

ポスターパネルに貼り付け可能なポスターのサイズは900mm(横)×1500mm(縦)です。貼り付けのためのピンなどは、会場に用意します。ポスター賞エントリーの方は、大会受付開始時間からポスター賞発

表の開始時間までの間に掲示をお願いします。一般発表の方は、3月9日（日）12:00 までにはご掲示をお願いします。いずれも3月10日（月）の17:15 までは掲出していただいて結構です。

[口頭発表]

発表時間は、講演12分、質疑応答3分の計15分です。ただし、次の発表者への交代をスムーズにするために、14分30秒で終鈴を鳴らします。終鈴が鳴りましたら、次の方への交代をお願いします。原則として発表はご自身のPCを使用して行っていただきます。プロジェクターとの接続はHDMIとなります。他端子との変換ケーブル等は大会側で準備いたします（特殊な端子をご利用の方は変換ケーブルをご持参ください）。万が一の場合に備え、発表ファイルはUSB等に移し、ご持参ください。また、発表時間には余裕をもってお越しいただき、休憩時間にスライドの投影チェックを行ってください。

[発表資料の作成]

バリアフリープレゼンテーションに関するサイトを参考にしてご作成ください。

希少植物の種の保全のため、口頭およびポスター発表では要旨を含め詳細な産地情報を伏せるなどの配慮をお願いします。

[大会実行委員会からのお願い]

例年、多数の方が口頭発表を希望されますが、大会スケジュールの関係で、全員のご希望に添えない可能性があります。口頭発表を希望される方は、発表申込のフォームで、可能な限り「口頭発表・ポスターのどちらでも良い（できれば口頭発表を希望する）」をご選択下さい。どちらでご発表いただくかの決定は、大会実行委員会にご一任下さい。また、特段の事情がない限り、プログラム確定後の口頭発表のキャンセルはお控えください。とくに、大会発表賞エントリーをされる学生会員の皆さんは、指導教員とよく相談のうえ、発表見込みで申込をすることのないようにお願いします。

[昼食]

3月8日～10日の3日間、お弁当の予約を承ります。学会開催期間中、高知大学朝倉キャンパス生協レストランは休業、また大学や駅周辺に飲食店が少ないため、お弁当を予約されない方は、大学またはご宿泊先近隣のコンビニエンスストアなどで購入してご持参ください。お弁当は3月8日（土）唐揚げ弁当、9日（日）エビフライ弁当、10日（月）ハンバーグ弁当（予定）で、いずれも600円です。お弁当のご予約は、参加費と同じ振込書にてお振込をお願い申し上げます。

[託児について]

託児室の開設は予定しておりません。ご希望がありましたら、12月20日（金）までに大会実行委員会にお知らせください。複数のご希望者がおられる場合には、開設を検討します。

[宿泊施設]

本大会では宿泊場所の斡旋は行いません。高知市内には多数の宿泊施設がありますが、土日は観光客が多く、直前では予約が取りにくくなります。また、3月1日～9日には酒国高知の大祭“土佐の「おきゃく」2025”が開催されるため、交通アクセス、宿泊とも混雑が予想されます。早めに各自で宿泊場所を確保されることをお勧めします。

高知県観光コンベンション協会：<https://kochi-tabi.jp/corp/>

こうち旅ネット：https://kochi-tabi.jp/search_spot_inn.html

高知市観光協会：<https://welcome-kochi.jp/stay.html>

[会場アクセス]

会場へのアクセスは公共交通機関をご利用ください。高知大学朝倉キャンパスには、高知市内よりJR土讃線およびとさでん交通（路面電車）でのアクセスとなります。JR「朝倉駅」、路面電車「朝倉（大学前）」が最寄り駅です。列車の運行本数が少ないので、予め時刻表をご確認ください。

とさでん交通では高知県内各社対象の「ですか」しか使用できません。また、SUICA、ICOCAなど他社ICカードおよび新紙幣千円札の両替（2024年10月末現在）は使用できません。JR土讃線では交通系ICカードは使用できません。ご注意ください。

とさでん交通株式会社：<https://www.tosaden.co.jp>

JR高知駅時刻表：https://www.jr-shikoku.co.jp/01_trainbus/jikoku/pdf/kochi.pdf

植物関連雑誌のタイトル紹介

富山県中央植物園 中田 政司

○利尻研究

〒097-0311 利尻郡利尻町仙法志字本町136 利尻町立博物館

<https://riishiri.sakura.ne.jp/Sites/RS/download/432024.html>

第43号 2024年3月—百原 新・大森彩瑚・那須浩郎・守田益宗・近藤玲介・佐藤雅彦：完新世における利尻島南浜湿原とその周辺の植生の時空分布／富岡森理・佐藤雅彦・風間健太郎：利尻島におけるササ属植物の開花について

○ひがし大雪自然館研究報告

〒080-1403 北海道河東郡上士幌町ぬかびら源泉郷 48-2 ひがし大雪自然館

<https://www.ht-shizenkan.com/s/study/?p=1&c=1>

第11号 2024年3月—玉井孝明・乙幡康之：帯広市で確認されたフウセンモ（フウセンモ科，黄緑色藻類）／乙幡康之：大雪山国立公園におけるチャツボミゴケの生育地（ソロイゴケ科，タイ類）

○秋田自然史研究

〒010-0873 秋田市千秋城下町 8-18 田中政行方 秋田自然史研究会

<http://akita-nathist.o.oo7.jp/mokuji.htm>

第81号 2024年1月—高田 順：秋田県産ヨモギ属の検討（9）—ヨモギ類の識別—藤原陸夫・阿部裕紀子：論評：北東北のヤブマメとウスバヤブマメ（マメ科ヤブマメ属）の分類と分布／菊地卓弥：秋田県能代市で見た逸出植物，ハナカザリゼリ／菊地卓弥：秋田県能代市のクロマツ林で見たクルマバナ属 sp. の検討／沖田貞敏：秋田県植物分布資料（16）エゾヒカゲノカズラとヤビツギラン／鈴木虎太郎：美郷町丸子川沿いにおけるネナシカズラ属の分布記録

○フロラ福島

〒970-8002 福島県いわき市平中平窪 1-16-3 薄葉 満方 福島県植物研究会

<https://sites.google.com/site/florafukushima/> 会誌 - フロラ福島 / フロラ福島掲載目録

第35号 2023年12月—山下由美・山下俊之：4種の菌従属栄養植物（アオキラン、ヒメノヤガラ、シロテンマ、ホクリクムヨウラン）の新産地報告／遠藤雄一・根本秀一・山下由美・山下俊之・黒沢高秀：福島県におけるスミレ科ゲンジスミレの現存の確認／上野雄規：東北大学植物園記念館に所蔵されている福島県新産植物 I／根本秀一・黒沢高秀：ふくしまレッドリスト（2017年版）において絶滅もしくは情報不足と判定されたクワガタソウ属（オオバコ科）について／薄葉 満：ホロムイソウの抽水形／薄葉 満：福島県の池沼見である記 VI（南相馬市原町区鶴谷）／薄葉 満：いわき市におけるイヌカタヒバ（イワヒバ科）の逸出記録／薄葉 満：< 書籍紹介 > 「ふくしまスミレ図鑑」 「福島県の海藻」 「小原黒森風穴並びに近隣の風穴における自然とその利用」／薄葉 満：< 書籍紹介 > 「風穴の自然と利用に関する研究」

○茨城県自然博物館研究報告

〒306-0622 茨城県坂東市大崎 700 ミュージアムパーク茨城県自然博物館

<https://www.nat.museum.ibk.ed.jp/materials/research/report/6446>

第26号 2023年12月—白井健司：茨城県におけるナガオバナ（*Schimmelmantia benzaiteniana*）の記録／北沢弘美・牧野純子・真藤憲政・今村 敬・稲葉義智・糟谷大河・鶴沢美穂子：ミュージアムパーク茨城県自然博物館構内における大型菌類リスト・補遺／栗原 孝・小幡和男・飯田勝明：茨城県那珂川およびその周辺の維管束植物相

○埼玉県立自然の博物館研究報告

〒369-1305 埼玉県秩父郡長瀬町長瀬 1417-1 埼玉県立自然の博物館

<https://shizen.spec.ed.jp/%E7%A0%94%E7%A9%B6%E5%A0%B1%E5%91%8A>

第14号 2020年3月—山本将也・平 誠：遺伝子解析に基づく両神山産コイワザクラ（サクラソウ科）の分類学的考察／齊藤 忠・岩田豊太郎・林 由季子：クロヤツシロラン（ラン科）を埼玉県秩父市に記録する／石渡孝行・佐藤 清・植田雅浩・須田大樹：埼玉県日高市のシダ植物目録

第15号 2021年3月—鐵 慎太郎・岩田豊太郎・木山加奈子・須田大樹：埼玉県新産のクジュウツリスゲ（カヤツリグサ科）の分布と生育環境／鐵 慎太郎・須田大樹・木山加奈子・岩田豊太郎：チャシバスケ（カヤツリグサ科）を埼玉県から記録／岩浪 創：埼玉県新産のアオフタバラン *Neottia makinoana*／岩浪 創：埼玉県新産のヌリトラノオ *Asplenium normale*／佐藤 清・石渡孝行・植田雅浩・須田大樹：埼玉県におけるミドリカナワラビ *Arachniodes nipponica* の初記録

第16号 2022年3月—齋藤 透・加藤佳英・林 由季子・須田大樹：埼玉県内にはミネカエデ *Acer pellucidobracteatum* は分布しない／市場 至・鐵 慎太郎：埼玉県入間地域におけるマヤランおよびサガミランの分布状況と生態／齊藤 忠：ムヨウラン属（ラン科）を埼玉県秩父地方に記録する／三上忠仁：埼玉県加須市北篠崎

にある浮野の水生植物リスト／舟木匡志・久保田潤一・山下洋平：狭山丘陵の都立公園におけるタチスゲ *Carex maculata* Boott の記録

第 17 号 2023 年 3 月—三村昌史・高杉 茂・五十嵐勇治・岩浪 創・岩田豊太郎・北田義明・小澤正幸・鈴木伸一・大野啓一：埼玉県において再発見されたヨウラクラン *Oberonia japonica* (Maxim.) Makino (ラン科) の生育環境と保全的位置づけの評価／原口和夫：埼玉県におけるカワモズク属 2 種及びオキチモズクの初記録／小川滋之・山崎茂治・竹内大悟：本州中部丘陵域におけるハンゴンソウの分布確認とその生育環境／三村昌史・岩田豊太郎・城戸博行：エゾムギ *Elymus sibiricus* L. (イネ科) の三国峠における再発見／岩浪 創・佐藤 清：埼玉県新産のイズセンリョウ *Maesa japonica* (サクラソウ科)／松本 薫：実生を活かした更新補助作業により成立したコナラ若齢林の林相

第 18 号 2024 年 3 月—三村昌史・藤井良造・木山加奈子：埼玉県におけるエゾデンドラ *Polypodium sibiricum* Sipliv. (ワラビ科) の再発見／岩浪 創：埼玉県新産のホンゴウソウ *Sciaphila nana* (ホンゴウソウ科)／小澤正幸・長谷川裕子・岩浪 創・近藤 昇・近藤京子：飯能市精明地区における水田地帯周辺の植物相と絶滅危惧植物の生育環境

○小笠原研究年報

〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1 東京都立大学 小笠原研究委員会

https://www.comp.tmu.ac.jp/ogasawara/annual_report.html

第 46 号 2022 年 5 月—須貝杏子・佐藤隆人：標本観察によるシロダモ属のフェノロジー調査／西村明洋・右田裕基・高山浩司：小笠原諸島固有寄生植物シマウツボの弟島での発見

○神奈川県立博物館研究報告 (自然科学)

〒250-0031 神奈川県小田原市入生田 499 神奈川県立生命の星・地球博物館

<https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1706848414159/index.html> (49 号より完全オンライン版化)

第 53 号 2024 年 3 月—田中徳久・村上雄秀・鈴木伸一・中村幸人：溪流辺の岩上に成立する低木群落の植物社会学的な位置づけ／田中徳久・アリサ グラボスカヤ・ポロディナ・勝山輝男・福田知子・大西 亘：コマロフ植物研究所所蔵の神奈川県産シダ植物・裸子植物・被子植物 (単子葉類と双子葉類の一部) の基準標本と関連標本 (英文)

○神奈川県自然誌資料

〒250-0031 神奈川県小田原市入生田 499 神奈川県立生命の星・地球博物館

<https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1706848520162/index.html> (41 号より完全オンライン版化)

第 45 号 2024 年 3 月—木村孝浩：真鶴半島“お林”の変形菌相 (2022 年調査)

○横須賀市博物館研究報告 (自然科学)

〒238-0016 横須賀市深田台 95 横須賀市自然・人文博物館

<https://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp/archives/publication/book/40800>

第 71 号 2024 年 3 月—山本 薫・高橋徹男：三浦半島で確認されたヨシススキ (イネ科)

○長野県環境保全研究所研究報告

〒381-0075 長野市北郷 2054-120 長野県環境保全研究所 飯綱庁舎

<https://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/johotekyo/kenkyuhokoku/hozen/index.html>

第 19 号 2023 年 3 月—栗林正俊・田中健太・渡邊理英・小熊宏之：長野県北部のカラマツ林における葉面積指数の推定／高野 (竹中) 宏平・黒江美紗子・大塚孝一・柳澤裕哉・尾関雅章・宮脇 優・水澤宏夫・竹内直美・鈴木身和子・矢島悠一・酒井 郁・有山義昭・小出可能：長野市における外来アブラ (サンショウモ科アカウキサ属) の発生記録と種同定／柳澤裕哉・浦山佳恵：開田高原における伝統的草地とその周辺の植物相／柳澤裕哉：長野県環境保全研究所飯綱庁舎自然観察路の植物相補遺Ⅲ

○富山市科学博物館研究報告

〒939-8084 富山県富山市西中野町 1-8-31 富山市科学博物館

<https://www.tsm.toyama.toyama.jp/?tid=103827>

第48号 2024年3月—藤田将人・岩田朋文・吉岡翼・清水海渡・太田道人・富山市山岳域自然調査報告（2023）／坂井奈緒子：富山県におけるイトゴケの記録

○富山県中央植物園研究報告

〒939-2713 富山県富山市婦中町上轡田42 富山県中央植物園

https://www.bgtym.org/_wp/wp-content/uploads/2024/04/BBGT29.pdf

第29号 2024年3月—兼本正：台湾蘭嶼島産イラクサ科ウワバミノ属3種の細胞学的研究（英文）／吉田めぐみ・和田直也：立山浄土山で新たに確認されたタテヤマキンバイ個体群／吉田めぐみ・和久井彬実：立山一ノ越におけるタテヤマキンバイ個体群の2022-2023年の短期動態／高橋一臣：ヨコハマダケの葉の表皮構造／和久井彬実：立山高山帯におけるイワカガミの繁殖特性／志内利明：中国雲南省産ハッポウジュにおける種子の発芽特性と低温保存耐性／西村幸芳：展示温室で確認された微小害虫とその土着天敵／早瀬裕也・和久井彬実・中田政司：富山県産絶滅危惧種チョウジソウ（キョウチクトウ科）の生息域外保全と挿し木増殖／兼本正：沖縄島産タイワントリアシの染色体数（英文）

○富山の生物

〒937-0857 魚津市三ヶ1390 魚津水族館内 富山県生物学会

<https://note.com/toyamaseibutu/>

第63号 2024年3月—氷見栄成・佐藤卓・金子靖志・松村勉・長谷川瑞穂：富山市子撫川流域の森林構造／長井幸雄：大滝山の植物相の概況／長井幸雄：大滝山のヒノキ林／佐藤卓：2023年全国ブナ結実状況

○石川県白山自然保護センター研究報告

〒920-2326 石川県白山市木滑ヌ4 石川県白山自然保護センター

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/hakusan/publish/report/report50.html>

第50集 2023年12月—小倉雅史・近藤崇・野上達也・奥名正啓：石川県のブナ科樹木3種の結実予測とツキノワグマの出没状況，2023

○石川県立自然史資料館研究報告

〒920-1147 石川県金沢市銚子町1 441 石川県立自然史資料館

https://www.n-muse-ishikawa.or.jp/?page_id=5384

第11号 2023年12月—本多郁夫：石川県に分布するオオタヌキモ／古池博・高内香（描図）：石川県草本植物図譜（5）

○福井市自然史博物館研究報告

〒918 8006 福井県福井市足羽上町147 福井市自然史博物館

<http://www.nature.museum.city.fukui.fukui.jp/shuppan/kenpou/kenpou.html>

第70号 2023年12月—藤野勇馬：中池見湿地で確認された特定外来生物とその現状／榎本博之・小林しのぶ・馬田英典・遊川知久：福井県で初めて発見されたキムヨウラン（*Lecanorchis japonica* Blume var. *kiiensis* (Murata) T.Hashim.）／梅村信哉：福井市足羽山における植生と土壤動物相の関係

○岐阜県植物研究会誌

〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸 岐阜大学教育学部生物学教室植物分類研究室内 岐阜県植物研究会

第38巻 2023年12月—福岡義洋：岐阜県のヤマトホシクサについて／福岡義洋・村瀬正成：岐阜県のヒメアオガヤツリ／福岡義洋：岐阜県にシナノショウキランの生育を確認／福岡義洋：岐阜県初確認のヒメイワダレソウ／福岡義洋：岐阜県初確認のヒトフサニワゼキショウ／福岡義洋：岐阜県のキヌヤナギと北海道のエゾノキヌヤナギについて／福岡義洋：岐阜県のホクリクタツナミソウ／福岡義洋：岐阜県のウキヤガラ／福岡義洋：岐阜県北部におけるヒシ

の新記録および県内での分布について／高橋 弘・藤尾正博：飛騨市で確認されたワニグチソウ（クサスギカズラ科）／高橋 弘・安藤志郎・市岡正太郎・安江正和・岩堀勝弥：岐阜県のキリシマギンリョウソウ／後藤稔治・田中俊弘・酒井英二・川村智子：乗鞍岳における残雪凹地の植生／櫻井潤弥・須山知香：岐阜県におけるウラボシノコギリシダ（メンダ科）の新産地／天本匡宥・須山知香：岐阜県において絶滅が危惧されるコケ植物の総覧

○ため池の自然

〒470-0195 愛知県日進市岩崎町阿良池 12 愛知学院大学日進キャンパス2号館 2425 愛知学院大学教養部 富田啓介宛 ため池の自然研究会

<https://tameike.site/journal60.html> (1号～59号)

第64号 2023年12月—飯尾俊介：東谷山と近隣湿地群の絶滅が危惧される植物／飯尾俊介：愛知県内にミクリガヤの新産地を記録する／中西 正：水神池の水草植生—ヒメガマ群落とヨシ群落

○南紀生物

〒646-0005 和歌山県田辺市秋津町 965 土永浩史方 南紀生物同好会会誌編集部

<https://nankiseibutu.jp/mokuji.html>

第65巻第2号 2023年12月—山本好和・盛口 満・小原比呂志・池田裕二・小西祐伸：屋久島ヤクスギランドおよび淀川登山口周辺の地衣類／山本好和・坂東 誠・高萩敏和・河合正人・吉成 経：大阪府産の興味ある地衣類Ⅰ／山本好和・井内由美・坂東 誠：兵庫県産の興味ある地衣類Ⅱ

第66巻第1号 2024年6月—山本好和・盛口 満・小原比呂志・池田裕二・小西祐伸：屋久島低地の地衣類／山本好和・盛口 満・佐藤寛之・杉本雅志・杉本まゆみ・多和田 匡：沖縄県名護市屋我地島の地衣類／山本好和・中西有美・中西花奈・坂東 誠：奈良県産の興味ある地衣類Ⅰ

○くろしお

〒646-0038 和歌山県田辺市末広町 15 - 21 藤五和久方 南紀生物同好会会報編集部

https://nankiseibutu.jp/mokuji_kuroshio.html

No.42 2023年9月—北野一夫：和歌山県におけるコショウノキ（ジンチョウゲ科）の分布について／北野一夫：和歌山県田辺市木守のヒゲアブラガヤ（カヤツリグサ科）について／北野一夫：和歌山県のクリ・コナラの巨木／福永裕一・尾添宏進・山本隆寿・谷 幸子：オオママコナのタイプ産地における野生シカによる食害の現状と保全についての提案

No.43 2024年9月—寺内久司：和歌山県市街地におけるゴウシュウヒカゲミズ *Parietaria debilis* G.Forst. の生育状況について／北野一夫：和歌山県における植物採集記録Ⅰ／北野一夫：和歌山県の有田川町釜中のモチノキ林

○奈良植物研究

〒633-8529 奈良県奈良市高畑町 奈良教育大学 辻野研究室気付 奈良植物研究会

<https://docs.google.com/spreadsheets/d/1GTgwbTjkPFRtLTdMn53qSOQGWACpzNh5/edit#gid=136016977>（会誌・会報記載植物名インデックス（1977～2014））

第44号 2023年8月—辻野 亮：高円山（奈良市）におけるナラ枯れ後のニホンジカ生息下の森林構造／豊田和彦：タニジャコウソウと受粉を担うトラマルハナバチの特徴的な関係／木村全邦：橿原神宮で再発見のヤワラゼニゴケと奈良公園のヤワラゼニゴケのその後／河合昌孝：天川村で見つけたハンドイ（*Syringa reticulata* (Blume) H.Hara）の個体群について／富永明良：奈良県で初めて記録されたキオオフガクスズムシ（ラン科）／富永明良：奈良植物雑記（12）【キバナイカリソウ・ヤマゴボウ・八重楓】／富永明良：奈良県におけるアオカワモズク *Virescentia helminthosa* 確認報告

○近畿植物同好会々誌

〒639-0254 奈良県香芝市関屋北 5-5-21 織田 二郎方 近畿植物同好会

http://kinshoku.eco.coocan.jp/kaisi_zaiko.html

第47号（2024年1月）—山住一郎・西村徹也・中野潤子：トサノミツバツツジについて（5）／植村修二：記録に残しておきたい南紀の植物（4）／富永明良：生駒山のラショウモンカズラ／藤井俊夫・植村修二：大阪市で外来種カモノハシガヤ *Bothriochloa ischaemum* (L.) Keng を発見／藤井 俊夫：大阪市でイヌキビ (*Panicum miliaceum* L. var.

ruderales Kitag.) が逸出 / 田中光彦：豊能町でカントウマムシグサを確認する / 伊吹寛子：ゴウシュウアリタソウの2形態 / 山住一郎：金剛山植物目録補遺 (3)

○大阪市立自然史博物館研究報告

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-23 大阪市立自然史博物館

<https://omnh-shop.ocnk.net/product/2048> (大阪市立自然史博物館友の会ネットショップ HP)

78号 2024年3月—菊地 賢・真崎 久・橋本勝明・鳴橋直弘：バラ科キイチゴ属の1新雑種：ピロウドモミジイチゴ

○倉敷市立自然史博物館研究報告

〒710-0046 岡山県倉敷市中央 2-6-1 倉敷市立自然史博物館

<https://www.city.kurashiki.okayama.jp/38509.htm#no38>

第38号 2023年3月—鐵 慎太郎：岡山県からズングリオヒシバ *Eleusine tristachya* (Lam.) Lam. (イネ科) を記録 / 狩山俊悟：岡山県植物誌資料 (23) 岡山県のセリ科ウマノミツバ属 / 小橋理絵子：岡山県で40年ぶりに再発見された絶滅危惧種ムサンモ *Najas ancistrocarpa* A. Braun ex Magnus の生育状況と花形態の観察記録

○広島市植物公園紀要

〒731-5156 広島市佐伯区倉重 3-495 広島市植物公園

<http://www.hiroshima-bot.jp/about/kiyo/>

第36号 2024年3月—世羅徹哉：広島県におけるネコノメソウ属イワボタン列植物 (ユキノシタ科) の変異と分布 / 濱谷修一：ラケナリア属 (キジカクシ科) の核形態学的観察 (*L. barkeriana* 等6種) / 世羅徹哉：広島県フロラ覚書 (11) ウスキムヨウラン *Lecanorchis kiusiana*, ツクシゼリ *Angelica longiradiata* var. *longiradiata*, オクシモハギ *Lespedeza davidii* / 世羅徹哉：広島県庄原市猫山山頂周辺の蛇紋岩露岩地および草地に生育する植物リスト

○徳島県立博物館研究報告

〒770-8070 徳島市八万町向寺山徳島県文化の森総合公園 徳島県立博物館

<https://museum.bunmori.tokushima.jp/kiyo.html>

第34号 2024年3月—藤本順子・徳島県立城北高等学校サイエンス部・小川 誠・渡部 稔・米澤義彦：徳島市内の都市的緑地に生育するカンサイタンポポとセイヨウタンポポの雑種について / 小亀とも子・茨木 靖・木下 覺：ナルトオウギ *Astragalus shikokianus* の保全に関する研究1

○長崎県生物学会誌

〒852-8521 長崎県長崎市文教町 1-14 長崎大学教育学部生物学教室内 長崎県生物学会

<https://nagabio.ninja-web.net/gakkaishi.html>

No.93 2023年12月—中西弘樹：新長崎県植物誌ノート (長崎県植物誌補遺) 12 / 田中慶太：長崎県産地衣類報告 (9) / 川内野善治：北松浦半島の植物観察記録 (11)

No.94 2024年6月—中西弘樹：長崎県におけるソテツの野生生育地について / 中西弘樹：新長崎県植物誌ノート (長崎県植物誌補遺) 13

○佐賀自然史研究

〒841-003 鳥栖市古野町 600-1 鳥栖高校 矢川慎一郎 佐賀自然史研究会

<http://sashiken.sakura.ne.jp/>

第29号 2023年12月—上赤博文：嬉野市で2020～2023年に新たに見つかったレッドリスト植物 / 上赤博文：佐賀県で新たな分布が確認された植物 (12)

○宮崎県総合博物館研究紀要

〒880-0053 宮崎市神宮 2丁目 4-4 宮崎県総合博物館

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/mpmnh/-char/ja> (研究紀要を J-STAGE にて公開)

第41輯 2021年3月—福松東一：宮崎県内におけるキク科ヨメナ類の形態的観察の一考察／黒木秀一・原田栄津子・亀井一郎・須原弘登：宮崎県産「エナシラツタケ」について／山本好和・黒木秀一・松本美津・八木真紀子：宮崎県宮崎市平和台公園の地衣類／山本好和・黒木秀一・松本美津・八木真紀子：宮崎県串間市福島川河畔および大平川河畔の地衣類

第42輯 2022年3月—福松東一：宮崎県内におけるキク科ヨメナ類の形態観察の一考察2／山本好和・綿貫 攻・原 光二郎・黒木秀一・福松東一・松本美津・八木真紀子・盛口 満：宮崎県北部の向坂山および白岩山の地衣類（五ヶ瀬川・北川水系総合調査報告）／山本好和・綿貫 攻・黒木秀一・松本美津・八木真紀子：宮崎県日豊海岸および日南海岸の地衣類 補遺

第43輯 2023年3月—黒木秀一：九州新産のオオタマツリスゲ（カヤツリグサ科）について／岩切勝彦：宮崎県沿岸に産する海藻類について—宮崎市青島とその周辺に打ち上げられた海藻類調査報告 1—

第44輯 2024年3月—山本好和・黒木秀一・松本美津・八木真紀子：宮崎県椎葉村の地衣類／岩切勝彦・黒木秀一・赤木 康・井上伸之・斉藤政美・南谷忠志・福松東一：白岩山植物目録（五ヶ瀬川・北川水系総合調査報告）

○鹿児島県立博物館研究報告

〒892-0853 鹿児島市城山町 1-1 鹿児島県立博物館

<https://www.pref.kagoshima.jp/bc05/hakubutsukan/shien/bulletine.html>

第43号 2024年3月—寺田仁志・川西基博・立久井昭雄・金本直子・今村文子：天然記念物「城山」の過去20年の植生変化について／寺田仁志・立久井昭雄・前田広則・宮川 続：鹿児島県中と島底なし池湿原の植生について

第40回国際生物学賞記念シンポジウムの案内

第40回国際生物学賞記念シンポジウム実行委員会

委員長 田村 実（京都大・院・理）

第40回国際生物学賞 (https://www.jsps.go.jp/j-biol/03_recipients/40_awardee.html) 記念シンポジウムを、次の通り開催することになりました。植物分類学と関係の深いテーマですので、ご案内致します。

第40回国際生物学賞記念シンポジウム Commemorative Symposium for the 40th International Prize for Biology
「系統学と分類学—植物・動物・菌類・藻類・微生物を含む多様な生物の世界」"Phylogeny and Taxonomy - World of the diversified organisms including plants, animals, fungi, algae and microbes"

日時 2024年12月21日（土）

場所 京都大学芝蘭会館

主催 京都大学・日本学術振興会

9:45-9:50 **開会挨拶** Opening address **北川進**（京都大学理事・副学長）Susumu Kitagawa (Executive Vice-President, Kyoto University, Japan)

9:50-10:30 **海洋科学における系統分類学の力** The power of systematics in marine sciences **アンゲリカ ブラント**（ゼンケンベルク研究所・自然史博物館）（第40回国際生物学賞受賞者）Angelika Brandt (Senckenberg Research Institute and Natural History Museum, Germany) (Recipient of the 40th International Prize for Biology)

- 10:35-11:15 **蝶類の系統分類学と系統地理学 – ヒマラヤから日本までの研究を中心に –** Systematics and phylogeography of butterflies: focused on studies from the Himalayas to Japan **矢後勝也 (東京大学)** Masaya Yago (The University of Tokyo, Japan)
- 11:20-12:00 **東南アジアの植物多様性の解明に向けて** Towards a better understanding of plant diversity in Southeast Asia **田金秀一郎 (鹿児島大学)** Shuichiro Tagane (Kagoshima University, Japan)
- 12:00-13:15 休憩 (昼食) Lunch break
- 13:15-13:55 **新生物発見が微生物多様性の常識を変える** Discovery of novel organisms changes our understanding of microbe diversity **石田健一郎 (筑波大学)** Ken-ichiro Ishida (University of Tsukuba, Japan)
- 14:00-14:40 **系統学・分類学に関する地球規模の共同研究が海藻における発見を指数関数的に増加させる – 次の歩み** Global phylogenetic and taxonomic cooperation grows seaweed discovery exponentially – the next steps **ジュリエットブロディ (ロンドン自然史博物館)** Juliet Brodie (Natural History Museum, UK)
- 14:45-15:25 **変幻自在な巨大微生物きのこ類の系統分類** Phylogenetic classification of mushrooms, a variable giant micro-organism **服部力 (森林総合研究所)** Tsutomu Hattori (Forestry and Forest Products Research Institute, Japan)
- 15:25-15:45 休憩 Break
- 15:45-16:25 **分類学と仲よくなる** Become friends with taxonomy **馬渡駿介 (北海道大学名誉教授)** Syunsuke Mawatari (Hokkaido University, Japan)
- 16:30-17:10 **植物分類と全ゲノム塩基配列解析：遺伝子系統樹からの示唆と単系統性に基づく分類との不一致** Plant classification and whole-genome sequencing: implications of gene-tree conflict for classifications based on monophyly **マーク W. チェイス (キュー王立植物園)** Mark W. Chase (Royal Botanic Gardens, Kew, UK)
- 17:15-17:55 **光合成の生理生態学からみた植物系統分類学** Plant systematic biology and taxonomy: vista from ecophysiology **寺島一郎 (東京大学名誉教授・国立中興大学)** Ichiro Terashima (The University of Tokyo, Japan; National Chung Hsing University, Taiwan)
- 17:55-18:00 **閉会挨拶** Closing address **戸部博 (京都大学名誉教授・京都府立植物園長)** Hiroshi Tobe (Kyoto University, Japan; Director, The Kyoto Botanical Garden, Japan)

なお、本シンポジウムの参加費は無料ですが、参加には事前登録が必要です。本シンポジウムの参加形式は、対面だけでなく、オンラインでも可能です (ただし、オンライン参加の場合、質疑応答を視聴することはできませんが、自ら質問することはできません)。なお、本シンポジウム会場では、全ての講演と全ての質疑応答に日本語と英語の間の双方向の同時通訳をつける予定です (ただし、オンライン参加の場合は、質疑応答を除き、英語から日本語への同時通訳のみとなる予定です)。詳細は、11月に開設予定の本シンポジウムのホームページ (<https://www.kuba.co.jp/ipb2024/>) を御覧ください。

第40回国際生物学賞記念シンポジウム実行委員会：

田村実・布施静香・高山浩司 (京都大・院・理・植物系統分類学研究室)・中野隆文・岡本卓 (京都大・院・理・動物系統学研究室)・朝倉彰 (京都大学名誉教授)・川井浩史 (神戸大学名誉教授)

本シンポジウムに関する連絡先：

第40回国際生物学賞記念シンポジウム実行委員会 (総務代表 布施 静香)

e-mail: ipb2024@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

会費納入のお願い

会計幹事 國府方 吾郎

本会の会計年度は1～12月で、会費は前納制となっております。つきましては、**2025年度の年会費を2024年12月末までに納付**してください。

- ・同封された振替取扱票(加盟者名は「日本植物分類学会」)をご利用ください。24回大会(高知)の振替取扱票(加盟者名は「日本植物分類学会大会実行委員会」)も同封されていますのでご注意ください。
- ・本号封筒の宛名ラベルに「納入済年度」とカッコ内に未納会費(2025年度分を含む)を赤字で表示しています。2025年度分まで納入済みになるよう、「会費」に表示されている金額をお振込みください。「会費」に「自動引落」と表示されている場合、自動振替となります(引落予定日:2025年2月26日)。
- ・宛名ラベルの下線で示された部分(例「1000 1① A/ 植 / N/ 年 / 大」)は、配送代行業者の配布物確認用データですのでご放念ください。
- ・学生会員のうち、2024年度に一年会員で入会された方は自動的に2024年度末で退会となります。2025年度も引き続き、会員をご希望される場合、至急、会計幹事まで連絡頂き、2025年度会費の納付をお願いします。
- ・4年以上会費を滞納されている方は、規約第10条(2)に基づき除名を行っております。

ご不明の点があれば、会計幹事までご連絡ください。

健全な学会運営にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

寄稿

保安林内における植物採集・DNA用サンプル採取には届出が必要か

研究・普及推進委員会 黒沢 高秀(福島大・共生システム理工)・
田金 秀一郎(鹿児島大・博物館)・末次 健司(神戸大・院・理)

ひと言で言うと、「**数株程度の下草の収集**」や「**葉量を大幅に減少させず樹幹を損傷しない生枝の切除**」に該当する植物の標本作成やDNAサンプルの保安林内での採取は森林法上の「**下草、落葉若しくは落枝の採取**」「**立木の損傷**」には**当たらなかった**、です。詳細な情報が必要な方は以下の長文をお読み下さい。

種の保存法や各県市町村の保護条例で定められた希少野生動植物など特別なものを除き、植物の標本作成やDNAサンプルの採取のために必要な採集許可や届は、所有者の同意等の他に、(1)自然公園法や自然公園条例に基づく国立公園や県立自然公園内の特別保護地区内の全種類や特別地域の指定植物に関する「採集許可」(副島1998)、(2)文化財保護法に基づく天然記念物に関する「現状変更許可」(原1998)、(3)森林法に基づく保安林内での「下草、落葉若しくは落枝の採取届」「立木の損傷届」、(4)国有林の「入林届」または「高山植物等採取許可」である。このうち、「下草、落葉若しくは落枝の採取届」「立木の損傷届」については、必要かどうかの見解が分かれており、近年は都道府県あるいは担当者によって届出不要(北海道、長野県、鳥取県、福岡県、鹿児島県など)の例。ただし担当者や年によって異なる可能性がある。以下同様)から届出が必要でしばしば受理に時間がかかったり、不受理とされるなど(宮城県、福島県などでの例)対応が様々だった。

現行の森林法(2024(令和6)年4月1日施行)では第三十四条第二項で「立木の損傷」「下草、落葉若しくは落枝の採取」は都道府県知事の許可を受けなければならないが、その第六号で、その他農林水産省令で定めるものをする場合はこの限りでないとされている。さらに、森林法施行規則(2024(令和6)年4月1日施行)第六十三条第四号で学術研究の目的に供するため、あらかじめ都道府県知事に届け出たところに従って下草、落葉又は落枝を採取する場合はこれに該当するものと定めている。届出を求める立場は植物の標本作成やDNAサンプルの採取がこれに該当すると扱ったものと考えられる。一方、届出不要とする立場は、この条項は保安林の機能を損なうような規模の「立木の損傷」や「下草、落葉若しくは落枝の採取」を想定しており、植物の標本作成やDNAサンプルの採取のような軽微なものは森林法が制限する行為に当たらないというものと思われる。

ところが、林野庁による「保安林及び保安施設地区の指定、解除等の取扱いについて」（2024（令和6）年4月1日付け5林整治第1878号、<https://www.rinya.maff.go.jp/j/tisan/tisan/attach/pdf/h.low-14.pdf>, 2024年10月25日確認）の45～46ページに「立木を損傷」とは立木を損ない傷つけることにより立木の成育を阻害するおそれのある行為であり、葉量を大幅に減少させず樹幹を損傷しない生枝の切除は該当しないこと、「下草、落葉若しくは落枝を採取」とは、土壌の生成が阻害され、又は土壌の理化学性が悪化若しくは土壌が流亡するおそれのある行為であり、表土を露出させない範囲の下草の収集（数株程度の下草の収集）は該当しないことが明記されている。また、これに従い、各都道府県のとびき類などにも同様な記述が含まれているようである（福島県の場合、「福島県保安林内作業許可の手引き」（<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/606177.pdf>, 2024年10月25日確認, 21ページ）。「葉量を大幅に減少させず樹幹を損傷しない生枝の切除」や「数株程度の下草の収集」に該当する植物の標本作成やDNAサンプルの採取は、届出不要とする立場が正しかったことになる。このことは許可担当者レベルでは周知されていないようで、福島県でも宮城県でも昨年時点で「下草、落葉若しくは落枝の採取届」「立木の損傷届」の提出を求められた。しかし、林野庁の通達や県のとびきの存在を教えることにより、例外を除き、届は不要であることが認められた。このように、植物の標本作成やDNAサンプルの採取は「下草、落葉若しくは落枝の採取」「立木の損傷」に当たらないという立場が基本的には正しく、森林法の許可が必要な行為に当たらない以上、森林法の例外規定により森林法施行規則で許可申請書の代わりに提出が定められた届を作成する必要はない。しかし、心配な場合は、林野庁の通達の存在を示しつつ、都道府県の担当者に確認することをお勧めする。ただ、そのようにした場合に、「届が必要かどうかを確認するため」等の理由で届やそれに準ずる書類や情報の提出を求められる場合もある（福島県の一部や岩手県の例）。そのような要求の法的根拠の有無なども含め、情報を収集中である。

「下草、落葉若しくは落枝の採取届」「立木の損傷届」は福島県では天然記念物に関する「現状変更許可」に次ぐ面倒な手続で、担当者によっては詳細な図面や林班名、土地所有者の同意書などを次々求められることがあり、親切でない担当者に当たるとものすごいストレスで、筆者の一人は何度か調査断念に追い込まれた。親切な窓口担当者は二人がかりで長時間図面や書類をあれこれ調べてくれるなど有難いのであるが、保安林の機能維持の観点からは明らかに無駄な作業である。地方の森林行政のためにも良かったと思われる。

林野庁による「保安林及び保安施設地区の指定、解除等の取扱いについて」に当該の記述がいつからあるかは確認できていない。筆者らが入手できた2023（令和5）年3月23日付け4林整治第2038号には掲載されている。ウェブ上で確認できる2013（平成25）年4月1日付け24林整治第2724号（https://www.maff.go.jp/j/kokuji_tuti/tuti/pdf/t0000886.pdf, 2024年10月25日確認）には記述がないことから2014年以降2023年以前ということになる。情報をお持ちの方は、お寄せ頂ければ幸いです。

委員の根本秀一さんは、法律やとびき等について調べ始めるきっかけを作って下さり、いくつかの県の状況についてお教え下さりました。御礼申し上げます。

引用文献

- 副島 顕子. 1998. 国立公園における採集許可の申請方法. JSPT Newsletter (91): 22-24.
原 眞麻子. 1998. 天然記念物の採集許可申請. JSPT Newsletter (91): 25-26.

書評

宮城県野生植物分布図集 [電子版]

黒沢 高秀 (福島大学共生システム理工学類)

https://www.miyagi-syokubutsu.org/miyasyokubunpuzu_index.html

宮城県の地域の植物の研究会・同好会である宮城植物の会は『宮城県植物誌』(宮城県植物誌編集委員会 2017)を発行し、その後も植物目録の改訂版(宮城県野生植物目録編集チーム 2022)、その補遺(上野他 2023)を出版するなど、県内の植物の種多様性に関する情報整備を精力的に進めている。今回、宮城県に生育が確認されている(すなわち、宮城県野生植物目録編集チーム 2022と上野他 2023に掲載されている)全ての蘚苔類と維管束植物の変種以上の雑種を含む分類群(前者 688 種類、後者 3486 種類)についての分布図をインターネット上に公開したので、紹介したい。地図には市町村の境界と主な河川が記されているほか、宮城県植物誌編集委員会(2017)による県内の5つの植物区系区分(I 奥羽山脈区、II 仙台平野区、III 北上山地区、IV 阿武隈山地区、V 島嶼区)の境界が記されている。分布は標本産地を地図上に落としたもので、1965~2022年の標本にもとづくものを黒で、1964年以前の標本にもとづくものを白抜きで示しており、近年確認されていない産地である事などもわかるようになっている。

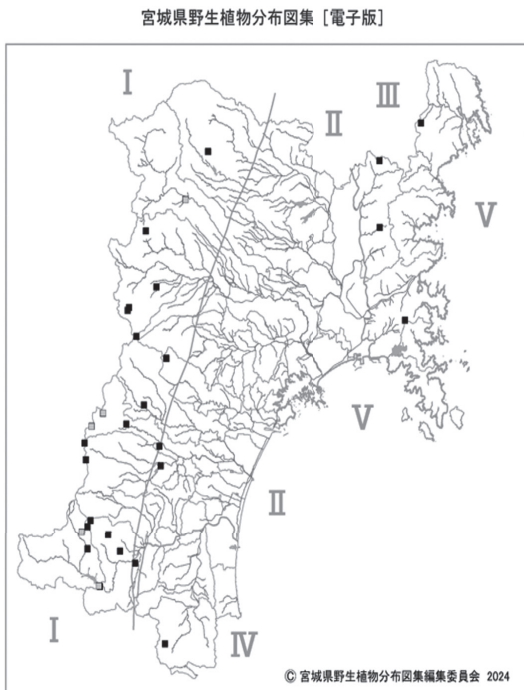
絶滅危惧の分類群等は5 km メッシュレベルの分布図にして保全に配慮している。『宮城県植物誌』も標本にもとづく植物誌であり、標本目録の電子データが入ったCD-Rが付録として付いていたことが特徴で、評価される点であったが、本分布図集も標本にもとづくというこだわりを継承している。分布の点が多量に付いている標本数は11万9千件で(細谷 2023)、図1にシオガマグキの例を示すが、県内の分布傾向を十分に把握できる精度の高いものである。また、いろいろな植物の分布を確認してみると、宮城県植物誌編集委員会(2017)で採用された県内の5つの植物区系区分に合った分布をしているものが多く見られ、この区分がおおむね適切であったことが改めて確認できる。全ての分布図には、県内の分布状況に関する「標本分布」、生育環境に関する「潜在分布と生育地」、情報が足りない地域などの「今後の課題」、分類学的なコメントや品種の記録などの「トピック」に分けて、分布の説明が付されている。この説明は『宮城県植物誌』などに掲載がなく、分布図が初出のようである。これらの点で本分布図集は学術的な価値が高いものである。今後の都道府県版の分布図作成の1つの見本になるべきものと思われる。

Index(索引)が和名の五十音順のみで学名では検索できない、分布図に最低限の凡例もないので別ページにある長文の凡例を参照しなければならない、分布の説明も含めて図の形式なのでテキストが取り出せない、などの若干の使いにくさがある。長い年月をかけて多くの人の多大な労力で作成されたもののようなので(元世話係 2021)、容易では無いと思うが、もし機会があれば使い勝手の改善に期待したい。

引用文献

- 上野 雄規・横山 正弘・千葉 道徳・境 秀紀. 2023. 宮城県野生植物目録 2022 補遺. 宮城の植物 (48) : 7-17.
- 細谷 治夫. 2023. 宮城県維管束植物分布図の作図について. 宮城の植物 (48) : 34-36.
- 宮城県植物誌編集委員会 (編). 2017. 宮城県植物誌. 宮城植物の会. 大崎.
- 宮城県野生植物目録編集チーム (編). 2022. 宮城県野生植物目録 2022. 宮城植物の会. 仙台.
- 元世話係. 2021. 宮城県植物誌分布図編 作成活動の歩み. 宮城の植物 (46) : 90-91.

シ
 シウリザクラ
 シオガマガク
 シオクダ
 シオザキノソウ
 シオデ
 シオバラザサ
 シオン
 シカクイ
 シカクホタルイ
 シガバデソウ
 シキミ
 シケシダ
 シケチシダ
 シコクママコナ
 シコタンソウ
 シシウド
 シシガシラ
 シズイ
 シソ
 シソバツツナミ
 シダレヤナギ
 シダレヤナギ×オオタチヤナギ
 シデアブラガヤ
 シデヤジソ
 シドキヤマアザミ
 シナガワハギ
 シナダレスズメガヤ
 シナノキ
 シナノタイゲキ
 シナレンギョウ
 シノブ
 シノブカグマ
 シバ
 シハイスミレ
 シバスダ
 シバツメクサ
 シバナ
 シバムギ
 シバヤザサ
 シベリアメドハギ
 シモキタイチゴ
 シモツケ
 シモツケソウ
 シヤガ
 シヤガイモ
 シヤク



科名 ハマウツボ科 ID 22921
 和名 シオガマガク
 別名
 学名 *Pedicularis resupinata* L. subsp. *oppositifolia* (Miq.) T. Yamaz. var. *oppositifolia* Miq.

備考 シロシオガマを含む

【1. 標本分布】
 I ほぼ全域, II 川崎町金房, 白石市, III 広域, IV 丸森町筆浦。

【2. 潜在分布と生育地】
 山地の草地に生育。

【3. 今後の課題】
 II の標本がほとんど無いため、分布について調査が必要。

【4. トピック】
 品種シロシオガマはI 渡瀬風穴。

2024年4月27日
 宮城県野生植物分布図集編集委員会(編) 宮城植物の会(発行)

図 1. 宮城県野生植物分布図集 [電子版] のシオガマガクのページ。
https://www.miyagi-syokubutsu.org/bunpuzu_vascular/l2_si_frame.html

編集室より

今号は講演会, 大会・総会, 国際生物学賞記念シンポジウムの案内があります。事前登録が必要なものもあります。ご確認ください。また, 報告, 寄稿, 書評もあり, 盛りだくさんの内容です。次期 (2025 - 2026 年度) 幹事についてお知らせがありました^が, 次号もまたニューレターを担当させていただきます。どうぞよろしくお願ひします。(ニューレター担当幹事 大槻 達郎)

